鬼怒川新架橋工事彙報

栃木縣廳　田邊生

「一水百萬の栃木縣！」何といふ惠まれざる縣でせうか。一水出たら百萬圓は要るといふこの厄介千萬な復舊費の三割見當をいつでも獨占するあばれ川が卽ち鬼怒川で鬼怒川を横斷すべき國道第四號線に鬼怒川新架橋が今、進行中ですからその概要を御報告しようと思ひます。

國道第四號線とは告示を見ればわかるように東京市より北海道廳所在地に達するといふ、とりもなほさず奥羽街道で、東京を出てから埼玉縣の栗橋町地内で利根川を渡る（これが最近出來たばかりの利根川橋）それから茨城縣の古河を經て栃木縣に入り小山、宇都宮を經て鬼怒川に達する次第です、夫れからは那須野ケ原を縱走して福島縣の白河に入る譯ですが此の架橋地點は右岸河内郡古里村大字岡本新田、左岸、鹽谷那阿久津村大字寶積寺地内、汽車で申せば東北本線宇都宮驛の次の岡本とその次の寶積寺との中間に當る譯です。利根川橋の竣工した今日から申せばまつしぐらに自動車でつっぱしれば東京から三時間半位で達しられませう、汽車を岡本驛で乘りすてれば歩いても二十八分位で現場に達します。

明治十八年頃に道路知事の仇名で有名であつた故三島通庸子が縣令として國道の附替を斷行して同時に殆んど縣内の全線を五間巾に改修しましたから路線の選定も先づ申分なく立派に今日の有効四間巾で國道としての素質を備へて居る次第です。これを自動車でドライブする事はまだ交通の比較的薄い此の地方のこととて可成り痛快なものです。

こんな譯で道路の沿革としては比較的新しいから橋についてのおもしろい歴史などは殆どありません只、明治十七年頃巾三間總長百二十間の木橋を架設した處二十五年九月の洪水で一たまりもなく流されて以來そのまゝになつて今日まで辛うじて渡船で交通をつないで居た有樣です。

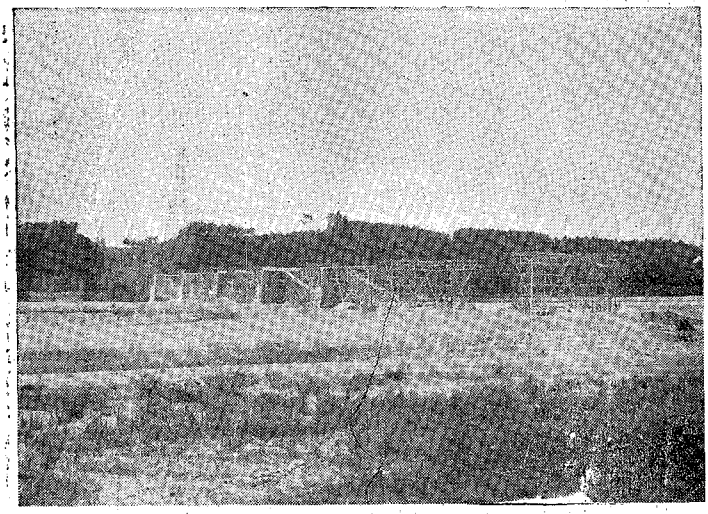
新橋の名はまだ決定して居ませんから假に之を新鬼怒橋としておきます、新鬼怒橋は最も經濟的なる耐久構造として研

究の結果大正九年十一月通常縣會に前土木課長原清明君の手で計畫されて提案されたもので當時其の總豫算は五十五萬圓で十年度より十四年度に至る五ヶ年繼續事業として總工費の三分の二は國庫補助を受け得るものとして決定した次第です。

工事の實施設計は東京帝國大學教授柴田博士指導の下に同大學營繕課囑託技師神山善司君が主として取まとめたもので十年八月工事施工認可申請と同時に國庫補助を申請しその後着々起工準備を急いで居た處內務省の意見もあつて鐵道東北本線との横斷を高架橋に改むる必要を認め更に豫算を總額金六十五萬圓に更正し左記の如き實施設計を編成し夫々認可を經て十二年八月起工するに至つた次第です

新鬼怒橋

橋長　二百五十七間半
巾　有効四間



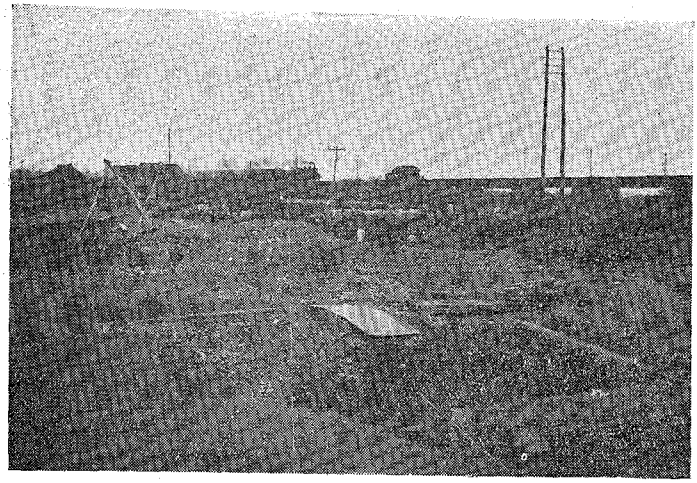
右岸方面ヨリ全工程ヲ望ム

內　右岸　二二〇間、

橋體　長百呎鋼構桁十五連（ボニートラス）
橋床　鐵筋混凝土
橋面　土瀝青混凝土鋪裝
橋臺　玉石混凝土造
橋脚　玉石混凝土造表面煉瓦張角石使用、基礎枠下ゲ土丹盤面下根入八尺以上

鐵道跨線橋
橋長　五十呎
巾　有効四間
橋體　鋼鈑桁壹連
橋床　鐵筋混凝土
橋面　土瀝青混凝土鋪裝
橋臺　玉石混凝土造
取附道路
延長　五百三十七間六分

左岸　三一七、六
巾　四間



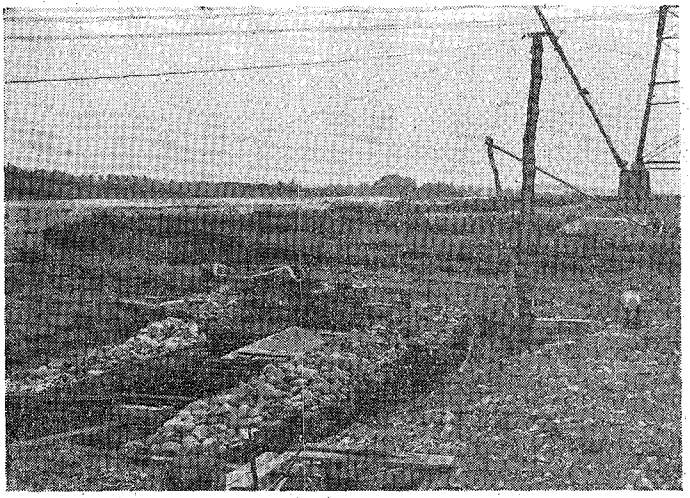
第五號橋柱附近工程

但切取部分ニアリテハ兩側一間ツヽヲ擴大シテ排水溝ヲ兼用セシム、

最急勾配　三十分ノ一

最小曲半徑　三十間

他の附帶工事及上部構造の組立、路床、路面工事等を一括して指名入札で十二年七月東京市京橋區大丸組に金三十六萬八千四百六十四圓を以て請負はしめ次で本年七月鋼鐵部工作をやはり指名競爭入札で神戸市川崎造船所に金十九萬六千三百八十五圓を以て請負はしめたの

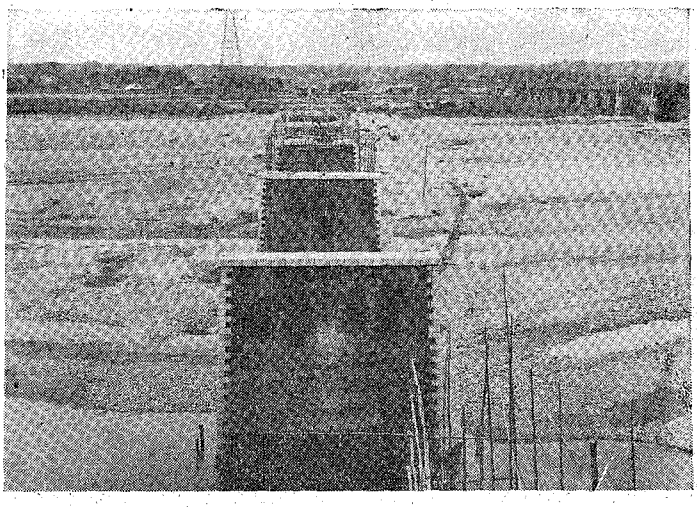


第五號橋脚基礎箱枠沈下事

工事の施行方法は請負に據る事とし下部構造、道路工事其で併せて金五十六萬四千八百四十九圓が直接の工事費で其他

は用地費、移轉償費、監督費、雜費に當る譯です。

大丸組は契約以來着々工事の準備を進め昨冬より今春にかけては縣下一般異數の渴水の爲に送電力の不足を來し水替ポンプの活動能力を著しく阻害され樣々苦心を重ねたるも反面には鬼怒川の大渴水の爲に基礎工事に作業上の便宜を得たような次第で先々順當に進行し下部構造卽ち橋臺、橋脚としては六分通の出來形に達して居ます。



左岸橋臺上ヨリ全工程ヲ望ム

現場では水替の爲使用中の「フューガルポンプ」は十馬力二臺、七馬力半二臺、五馬力一臺計五臺で材料取扱の爲三臺の「ウインチ」を使用し常に三四ヶ所の橋臺、橋脚について人夫、石工、大工、鳶、鍛冶、電工、潛水夫等一日百人を下らない有樣で盛に行程を急いで居ます。

鐵骨構造は下部構造の進捗に伴はせる必要上新鬼怒橋の方は五連分を本年中に、八連分を十四年一月中に、殘り二連分と鐵道跨線橋の分とを十四年三月中に納入する約束で目下夫々準備中です。

今年の夏は珍らしく例年の出水騷ぎも起らず名物の雷も一向鳴をひそめて居ます、現場では此の機會にといふので素晴らしく意氣込んで居る譯でキット豫定を早めて竣工して見せると何れも懸命の努力をやつて居る次第です。

（終）